

出穂期予想発表！
近年にない生育の遅れ！



今年は、6月に入ってから低温により、指標値（生育のめやす）に比べて葉数は遅く、草丈は短く、葉色、茎数は並となっております。

連休移植の圃場については、前年比やや遅れているものの指標値（生育のめやす）に比べて早め、多めと進んでいます。

◇水稲出穂予想【6月29日現在】

「5月10日頃移植」

	出穂期	穂肥窒素量	穂肥時期		湛水管理開始時期
			1回目	2回目	
こしいぶき	8/1	2	7/9 (-23)	7/18 (-14)	7/7～
ゆきん子舞	7/31	5～6	7/6～7/8 (-25～-23)	7/17 (-14)	7/6～
ひとめぼれ	8/1	2～3	7/7～7/12 (-25～-20)	7/18～7/22 (-14～-10)	7/7～
コシヒカリ	8/11	1～3	7/24～7/27 (-18～-15)	8/1 (-10)	7/17～
わたぼうし	7/28	2～3	7/6～7/8 (-22～-20)	7/16～7/18 (-12～-10)	7/3～
こがねもち	8/6	1～3	7/19～7/22 (-18～-15)	7/27 (-10)	7/12～
五百万石	7/28	1～2	7/8 (-20)	7/16 (-12)	7/3～
越淡麗	8/17	2	7/30 (-18)	8/7 (-10)	7/24～

※1 平年より3日、前年より6日遅い予想となっております。

※2 今後、平年並みの気候で推移した場合の予想です、気象変動で変わることがあります。

☆連休移植はこれより3日進む見込みです。

☆7月に入ってから高温多雨により、草丈はまだ短いものの葉身の伸びた姿となってきました。

コシヒカリについて7月11日頃までを目安にけい酸加里プレミアム34の施用(10a/20K)の施用をおすすめします。

早生4日、コシヒカリで3日程度平年より遅い。

◇幼穂長の調査方法

☆確認は、圃場内の生育が平均的な場所の2株で、株の中で1番長い茎と2番目に長い茎です。

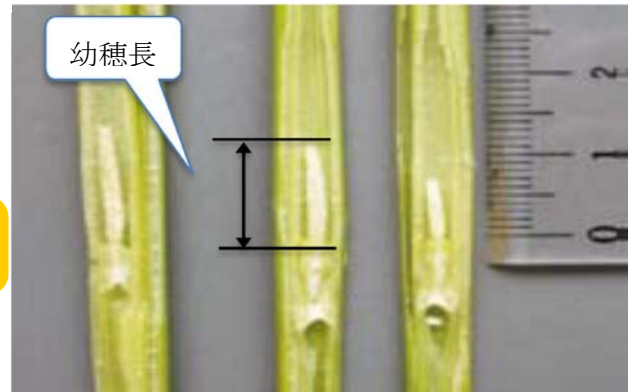
幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数	25日	23日	20日	18日	15日	12日	10日
幼穂長(mm)	1	2	5	10	20	80	125
穂肥時期		早生 1回目		コシヒカリ 1回目	早生 2回目		コシヒカリ 2回目

※カッターで茎を切って確認する方法



穂肥1回目の目安(コシヒカリ)



推奨穂肥

	容量	N区分	N%	P%	k%	配達価格
北越後穂肥専用	20kg	化学N	11.5	5	8	2,289
		有機N	0.5			
北越後有機穂肥	20kg	化学N	5.9	2	8	3,121
		有機N	6.1			
味好2号	20kg	化学N	0.0	2	7	2,786
		有機N	7.0			
有機アグレット816	20kg	化学N	0.0	1	6	3,672
		有機N	8.0			
おてがるくん (大型ほ場流し込み用)	20kg	化学N	12.0	5	7	2,700
		有機N	0.0			

◇ 病害虫防除とカメムシ類による斑点米発生防止 ～草刈りの徹底を～

- ・6月中の病害虫抽出調査では、カメムシの発生(幼虫・成虫)とドロオイムシの幼虫被害でしたが、7月の雨天によりいもち病の発生が心配されます。わたぼうしや新之助等のいもち病に弱い品種は十分な注意が必要です。
- ・昨年は早生品種を中心に斑点米による格落ちが多く見られ、今年もすでに成虫が発生しており特に早生品種のほ場付近では草刈りを徹底し、穂揃い期頃の適期防除と合わせて、斑点米発生を防止する。

(1) 雑草の実が結実しない間隔(3週間おき程度)で草刈りを実施する。

(2) 各地域の一斉草刈り期間に合わせて計画的に除草を行うことにより、カメムシ類の発生を抑制する。

梅雨に入り雨天が続く見込みですが晴れ間を見て農道防除も確実に実施しましょう。

◇生育後半の水管理

